

愛知淑徳大学 & 韓国・東亜大学校

国際大学交流 セミナー

7/31 WED ~ 8/9 FRI

「朝鮮通信使の足跡をめぐって」レポート

財団法人日本国際教育協会が主催する「国際大学交流セミナー」は、海外の大学から学生と教員を招聘し、外国との相互理解と友好親善に寄与することを目的に、昭和49年度に始まった事業です。公募制で選ばれたプログラムは文部科学省から補助金を受けることができます。

平成14年度は26大学の応募の中から、愛知淑徳大学と韓国・釜山の東亜大学校の共同プログラム「朝鮮通信使の足跡と日韓交流の展望」が見事選ばれ、夏休み期間中、10日間にわたる交流を行いました。

東亜大学校からは日本語日文学科を中心とする学部生及び院生15人と教員2人が来日。愛知淑徳大学からは現代社会学部の西尾教授の指導の下で延べ40人余の学生が参加し、講演会やシンポジウム、朝鮮通信使の足跡を辿るフィールドワーク、ホームステイなど、多彩なプログラムを通じ、交流を深めました。

朝鮮通信使：江戸時代、朝鮮王朝が12回にわたって日本に派遣してきた400～500人の使節団。対馬から瀬戸内海を渡り、兵庫、大阪から京都を経由し、沿道の人々と交流しながら江戸に向かった。彦根や近江八幡もそのルート。



国際大学交流セミナー
コーディネーター
現代社会学部教授
西尾林太郎

「国際大学交流セミナー」の成果

日韓関係というといわゆる日本の植民地支配や歴史認識の問題がとり上げられることが多いのですが、今回のプログラムは日韓関係が良好だった江戸時代を基礎として、これからのよき日韓関係を互いに確認しようという目的で企画しました。

東亜大学校の学生は日本語日文学科が中心で、ほとんどが日本語を話せません。愛知淑徳大学にも韓国語が話せる学生が3人いて、日本語、韓国語、英語で意思の疎通を図っていました。それまでいかにお互いの国や文化

や人を知らなかったか、誤解していたか。若者同士、色眼鏡をかけずに互いを見、そして事実を確認しながら素晴らしい交流ができたと思います。東亜大学校は今回のために両大学の校章を入れたTシャツを作ってくれて、我々もそれを着て滋賀県のフィールドワークを行いました。朝鮮との外交を担当していた高月町出身の雨森芳洲は、江戸時代に真の国際交流とは何かを考えた儒学者で、釜山に留学したこともあり、李先生が釜山に芳洲の銅像を造りたいとあつちやっていたのが印象的ですね。

セミナーは終わりましたが、学生たちはメールを交換したり、中には韓国に留学したいと言っている者もいるようです。今後も様々な形で交流が広がっていくのは本当に素晴らしいことだと思います。(談)



7月31日 ウェルカムパーティー。李吉遠先生による乾杯
東亜大学校の学生によるW杯「大韓民国」コール
パーティーで韓国の学生たち
8月1日 キャンパスツアー
図書館で日本の雑誌を興味深そうに見る東亜大学校の学生
フリートーキング
8月2日 東邦ガス知多LNG工場を見学

7/31 wed
来日-アイハウス

セミナー開校式
ウェルカムパーティー
秦国際交流センター長の開会のあいさつ
愛知淑徳大学都築久義副学長の歓迎のあいさつ、東亜大学校言語教育学院院长である崔教授のゲストスピーチのあと、歓迎パーティーが行われました。

8/1 thu
長久手キャンパス

セミナーガイダンス
キャンパスツアー
フリートーキング
基調講演
「私と朝鮮通信使 唐子人形との出会いから 現代社会学部 西尾林太郎教授
講演
「秀吉の朝鮮侵略、戦後処理、通信使へ」
日本福祉大学・名古屋外国語大学講師
眞井正之氏



西尾教授、東亜大学校李教授からのセミナーの趣旨説明のあと、両校の学生の親睦を図るため、自己紹介をしたり、自由にセミナーについて話し合ったり、長久手キャンパスの案内などを行いました。
午後からは「Tディネーター」の西尾教授による、「朝鮮通信使」との出会いを中心とした基調講演、そして通信使研究の第一人者である眞井正之氏による講演がそれぞれ行われました。

8/2 fri
長久手キャンパス-フィールドワーク

講義1
「アジア経済の現状及びビジネスパートナーとしての日韓関係の展望」
「ミニエート」
フィールドワーク(企業訪問)
韓国名古屋総領事館、東邦ガス知多LNG工場、豊田通商株式会社
「ミニエート」の眞田幸光教授の引率により、眞田ゼミの学生も多数参加して、愛知県内の企業等見学を行いました。

学生たちは、韓国名古屋総領事にお会いしたり、最新設備を誇る工場の見学、実際のビジネスを想定したシミュレーションを体験するなど、日本の今を知ることができ、充実した一日となりました。見学の先のご担当の方々には、お忙しい中、格別のご配慮をいただきました。感謝。

8/3 sat・4 sun
ホームステイ

ホームステイ
ホームステイ先家族の方々がアイハウスに集合し、1泊2日のホームステイに出かけました。ホームステイは長久手町役場、アイハウス周辺(名東区)の地域の方々及び本学学生に受け入れを依頼したもので、東亜大学校の学生たちは夏祭りやお茶会に参加するなど、日本の家庭を十分満喫しました。



8月5日 フィールドワーク。高月町・雨森芳洲庵
8月6日 彦根城
8月6日 近江八幡の日牟礼神社で社内参観
8月7日 各班ごとにテーマを決めてグループディスカッション。翌日、発表が行われた
8月8日 朝鮮日報日本支社長 白眞勲氏による国際交流講演会

8/5 mon・6 tue
フィールドワーク

フィールドワーク
「朝鮮通信使の足跡を辿る」滋賀県高月町・雨森芳洲記念館見学/彦根市内・朝鮮人街道巡り/彦根宗安寺見学/彦根泊/彦根城/近江八幡市・日牟礼八幡宮八幡堀等
5日早朝、アイハウスを出発し、セミナーのテーマである「朝鮮通信使」の足跡を辿るため、滋賀県方面へのフィールドワークを行いました。現代社会学部の西尾教授と谷沢明教授の引率により、通信使ゆかりの場所を見学しました。
連日の猛暑にも関わらず、学生達は熱心に調査を行い、6日夜アイハウスに戻りました。

8/7 wed
長久手キャンパス

講義2
「言語と文化の通・共時的な国際交流」
東亜大学校・人文科学大学日語日文学教授 李吉遠氏
講演
「異文化理解から多文化共生へ、韓国史家 小西正数氏(韓国近現代史研究)プロジェクト別会談
午前中は、東亜大学校の引率教員でもある李吉遠先生と、李教授と親交のある小西氏による講演。午後は両校学生がプロジェクト別にチームに分かれ、これまで調査した資料をもとにまとめを行いました。

8/8 thu
長久手キャンパス

国際交流講演会
「サッカーワールドカップ後の日韓文化交流について」
朝鮮日報日本支社長 白眞勲氏
プロジェクト別発表
さよならパーティー
午前中は前日に続いてセミナーのまとめ。午後は朝鮮日報日本支社長の白氏が、両校学生、本学教職員、一般参加者を前に講演されました。白氏の軽妙な語り口と、終了直後のW杯日韓共催が中心の興味深い内容に、皆引き込まれた様子。また白氏と親交の深い眞田教授が飛び入りで参加し、お二人の絶妙な掛け合いに会場はさらに盛り上がりました。
その後は両校学生によるプロジェクト別発表。短期間にも関わらず、協力して質の高い発表を行いました。レポートはいずれ小冊子にまとめる予定です。

8/9 fri
帰国

帰国
午前10時、東亜大学校の皆さんは、本学学生、国際交流センタースタッフが見送る中、アイハウスを後に。午後1時50分、名古屋空港から無事帰国の途に着かれました。本当にありがとうございました。



